

## 広島市立広島特別支援学校の移転・開校

広島市立広島特別支援学校長 中尾 秀行

広島特別支援学校は、平成24年9月に広島市南区出島四丁目1番1号に移転・開校しました。



本校は、昭和58年4月旧大手町中学校校の施設を改修し、広島市の中心部である中区大手町四丁目に小学部・中学部を設置した広島養護学校として開校しました。平成5年には高等部を開設しました。以来、本校は、広島市立の唯一の養護学校として、児童生徒が障害による学習上・生活上の困難を克服し自立を図るために必要な知識・技能を授け、多くの卒業生を社会に送り出してきました。平成19年4月1日には、広島市立広島養護学校から広島市立広島特別支援学校と名称を変えました。平成24年度、本校は、創立30周年並びに高等部開設20周年の節目の年を迎えました。



本校設置後、財政状況が大変厳しい中、必要な施設の改修等を行ってきましたが、建築後50年の経過による施設・設備の老朽化や児童生徒の増加による狭隘化、障害の重度・重複化、多様化等の問題が生じており、これらに対応するため早急な建替が必要でした。平成15年3月に出された、「広島市特別支援教育基本構想」の最終報告書に基づき、多くの市民意見を反映し平成17年10月に、「広島養護学校の建替えに係る基本構想」が策定されました。以後、長い時間を要しましたが、平成23年2月22日から待ちに待った建設が始まりました。

総事業費、84億5千万円で完成した新しい本校の施設・設備を紹介します。グラウンド、農園を含む敷地面積約2万5千㎡あります。校舎内には、普通教室72室や食品加工室、クリーニング実習室、清掃実習室、接客・販売実習室など職業教育に必要な特別教室を設置しました。スノーズレン、生活指導室、機能訓練室など特色のある教室もあります。3階に配置する約500㎡のサポートセンターには、相談室、検査室、言語指導室、資料室等の各諸室があり、本市の幼・小・中・高等学校の幼児児童生徒、保護者、教職員の相談に応じていきます。屋内には、体温調節が難しい児童生徒も安心して使用することができる温水プールがあります。普通教室棟の屋上には、サーキットトレーニングができる運動器具を配置し、運動場として利用できます。また、グラウンドのフィールドは芝生化し、重度重複障害のある児童生徒が安全に運動や身体活動ができるようになりました。体育館も含め、全館、空調を整備しました。



日差しがさんさんとふりそそぐ明るい学校、四季の移り変わりが感じられる緑豊かな学校、見通し・風通しが良い、気持ちのいい学校、そして、なりより主役

である児童生徒がかっこよく生活できる学校として良好な教育環境となりました。日本一の施設・設備ができました。さらに、日本一の教育ができる学校となることを目指して、努力を続けています。

学校教育目標を「児童生徒の自立と社会参加を目指し、一人一人の力を伸ばして、主体性をもって

豊かに生きる人間を育てる。」としています。児童生徒が本校を卒業後、自立し社会参加するために、児童生徒の実態や教育的ニーズに応じた適切な指導と必要な支援を行い、児童生徒の力を最大限発揮させる授業改善を進めています。障害の重度・重複化、多様化に対応するため、教育課程を見直し、類型を取り入れました。平成24年度より高等部普通科に職業コースを設置し、職業観・勤労観の育成、企業就労に向け専門性を高め、資格取得を目指す家政、流通・サービスなどの専門教科の実施、職業に関する専門性を有する教員及び外部人材を活用した職業教育の充実を図っています。

今後とも、特別支援教育、特別支援学校の充実・発展と明るく、元気に、たくましい児童生徒の育成に努めていきたいと考えています。